

市民環境部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民環境部長 橋本 有功

①リープロの名称	●リーディングプロジェクト1 【環境を守り、未来へつなぐまちをつくるプロジェクト】														
②目標値	<table border="1" data-bbox="456 450 1465 696"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H26 年度)</th> <th>目標 (H32 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境美化活動参加者数</td> <td>530 人</td> <td>1,800 人</td> </tr> <tr> <td>市民 1 人 1 日当たりの資源物以外のごみ排出量</td> <td>908 g / 人・日</td> <td>883 g / 人・日</td> </tr> <tr> <td>リサイクル率</td> <td>28.2%</td> <td>28.3%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状 (H26 年度)	目標 (H32 年度)	環境美化活動参加者数	530 人	1,800 人	市民 1 人 1 日当たりの資源物以外のごみ排出量	908 g / 人・日	883 g / 人・日	リサイクル率	28.2%	28.3%
項目	現状 (H26 年度)	目標 (H32 年度)													
環境美化活動参加者数	530 人	1,800 人													
市民 1 人 1 日当たりの資源物以外のごみ排出量	908 g / 人・日	883 g / 人・日													
リサイクル率	28.2%	28.3%													
③今年度の目標	<p>①県内一斉ふるさと美化活動、スポーツごみ拾い、捨てちゃイ缶バイ作戦及び轟木川清掃の活動を引き続き実施し、市民及び企業の参加者が増加するよう更なる啓発・広報を行います。また、リサイクルやごみ減量に関する地域の講習会や小中学校に職員を講師として派遣して、市民や小中学生の「ごみ」に対する関心を高める機会を推進します。</p> <p>②適正な分別やごみ減量化に関する情報を市の広報紙やホームページに掲載することで、リサイクルやごみ減量に対する啓発及び意識の向上を図っていきます。また、溶融資源化センターやリサイクルプラザの各施設の見学等を行い、環境保全意識の向上を進めます。</p> <p>許可事業者の更なる環境問題意識向上のため、収集車両に対して、ごみ搬入状況の把握を行うとともに、不適切な物が混入していないかの展開検査を実施します。また、生ごみ堆肥化容器等や集団回収への助成を行い、ごみの減量化、資源化を推進します。</p>														
④上半期の取組内容	<p>①県内一斉ふるさと美化活動に 230 人が参加。今後もスポーツごみ拾いなど環境美化活動参加者の取組が拡大するよう進めていきます。</p> <p>②ごみ減量化の取り組みとして、環境出前講座や施設見学会を実施しました。公式ホームページ更新を機に、ごみ、リサイクル関係のページを一層、見やすく、わかりやすいものに手直しを行いました。</p>														
⑤下半期の取組内容	<p>①各環境美化活動では、スポーツごみ拾いなど企業協賛の広がりを見せるなど一定の成果は表れたが、雨天による中止の影響もあり目標値達成は出来ませんでした。</p> <p>②ごみ収集アプリの作成を行い、身近な情報発信に努めるとともに、まちセンを活用したリサイクルの新たな取り組みを検討するなど、工夫したごみ減量化に向けた事業展開を進めました。</p>														
⑥数値目標の結果	<p>環境美化活動参加者数は 1 月末時点で 819 人となっています。また、市民一人当たりの資源物以外のごみ排出量は 1 月末時点で 855 g となりました。なお、リサイクル率は西部環境施設組合からの数字等の把握が必要なことから年度終了後に数値が判明する予定です。</p>														
⑦成果と課題 (次年度に向けて)	<p>環境美化活動の推進は、粘り強く地道に続けていくことが重要であり、ごみ減量化・リサイクルも様々な取り組みの中で市民の関心や意欲の向上を進めることが必要であることから、今後も、新たな取り組みや事業の推進を不断に行うことが目標の達成に近づくものと考えています。</p>														

◇副市長の指示

上半期

- ・適正な分別やごみ減量化に関して、様々な機会を通じて情報提供することで、市民一人ひとりのリサイクル等に対する意識の向上を図り、資源物回収や環境美化活動など自主的な活動を行いやすい環境支援を行うこと。

下半期

- ・市民一人ひとりの環境美化活動やごみ減量化・リサイクルへの関心や意欲の向上が図られるよう、情報提供や自主的な環境美化活動の環境支援に努めること。

市民環境部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民環境部長 橋本 有功

①リープロの名称	<p>●リーディングプロジェクト7 【自分らしく暮らせ、みんなで進めるまちづくりプロジェクト】</p>												
②目標値	<table border="1" data-bbox="456 450 1425 696"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H26 年度)</th> <th>目標 (H32 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>語学ボランティア登録者数</td> <td>19 人</td> <td>25 人</td> </tr> <tr> <td>鳥栖市民活動センター利用者数</td> <td>14,484 人</td> <td>17,500 人</td> </tr> <tr> <td>市民活動ガイドブック登録団体数</td> <td>97 団体</td> <td>125 団体</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状 (H26 年度)	目標 (H32 年度)	語学ボランティア登録者数	19 人	25 人	鳥栖市民活動センター利用者数	14,484 人	17,500 人	市民活動ガイドブック登録団体数	97 団体	125 団体
項目	現状 (H26 年度)	目標 (H32 年度)											
語学ボランティア登録者数	19 人	25 人											
鳥栖市民活動センター利用者数	14,484 人	17,500 人											
市民活動ガイドブック登録団体数	97 団体	125 団体											
③今年度の目標	<p>①国際交流を支援する団体等との情報交換を定期的に行い、外国人と市民との相互理解を深める「こくさいカフェ」を継続して開催していきます。また、語学ボランティアの募集を行い、地域の日本人及び外国人住民の双方に必要な情報提供に努めていきます。 友好都市であるドイツ国ツァイツ市からの公式訪問団として学生 10 名を受け入れ、日本の文化、歴史の紹介や鳥栖市民との交流を深め、国際交流の更なる充実向上を図っていきます。</p> <p>②各地区のまちづくり推進協議会の取り組みが一層推進されるよう、職員の支援を充実させるとともに、市との連携の強化を図り、各地区の特性に応じた魅力あるまちづくり活動を支援していきます。また、市民活動団体の自立と活動の充実を図るため、市民活動センターの活動内容の充実を進めていきます。</p>												
④上半期の取組内容	<p>①ツァイツ市から 10 名の中高生の受け入れを 6 月 26 日から 7 月 10 日まで行い、様々な日本や鳥栖の文化の紹介、体験による交流を行いました。文化庁の日本語教育事業を活用し、日本語指導者育成の充実を図る取り組みを始めました。</p> <p>②市民活動支援補助事業の見直しによる対応を図り、市内 7 団体を支援団体として認定しました。</p>												
⑤下半期の取組内容	<p>①こくさいカフェを開催し市民の方々との交流が深まり、市民に定着しつつあります。文化庁の日本語教育事業については他の自治体との連携や文化庁からの専門職員との課題への協議等を行い、来年度に向けた取り組みを検討しました。</p> <p>②新たな仕組みによる市民活動補助団体の実績報告会を行い、更なる事業の推進を図りました。また、まち協の充実を図るため、担い手育成の講座を開始しました。</p>												
⑥数値目標の結果	<p>語学ボランティアは 1 月末現在 28 人、市民活動センター利用者数は、1 月末現在 13,647 人で年度末には 16,000 人を超える見込みです。また、市民活動登録団体数は 1 月末現在 103 団体となっています。</p>												
⑦成果と課題 (次年度に向けて)	<p>国際交流に興味を持たれる市民の方が増えており、鳥栖市の特性としての外国人との共生は今後も充実させることが重要です。また、まち協をはじめとした市民活動の推進は、現在、市民の方々に認識が深まっており、今後の活動内容や取組がたいへん重要となると考えています。</p>												

◇副市長の指示

上半期

- ・日本人及び外国人双方への適切な情報提供に努め、国際交流の更なる充実に努めること。
- ・各地区のまちづくり推進協議会の取組がより強化されるように、人材の育成、先進事例の共有などをさらに進めること。

下半期

- ・鳥栖市の特性として外国人との共生は大変重要なものであることから、今後も課題解決に向けた検討を行っていくこと。
- ・市民活動団体及びまちづくり推進協議会は、次世代の人材育成という共通の課題があり、その解決に向けて鋭意検討を重ねること。